

—成城学園が50年間続けている「読書」教育の取組—

「読書のすすめ」50年目！第50号の発行を記念して

あなたが「先生」にすすめたい本 13冊を選出

学校法人成城学園（東京都世田谷区 理事長：渡 文明）は、「読書のすすめ」50年目50号発行を記念して、皆様から、あなたが「先生」にすすめたい本をHPで募集いたしました。このたび、応募いただいた書籍の中から13冊を選出し、成城大学図書館で展示することを決定いたしました。展示期間は成城学園文化祭期間の11月2日、11月3日となります。

《あなたが「先生」にすすめたい本》に選ばれた13冊

《教育・学校関連 7冊》



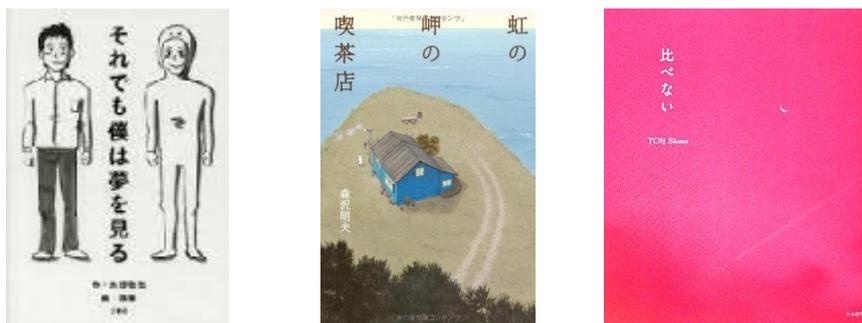
- 教室内(スクール)コースト 鈴木 翔(著) 解説・本田由紀
- さかさま世界史 英雄伝 寺山 修司著
- 高学歴女子の貧困 女子は学歴で「幸せ」になれるか? 大理 奈穂子(著), 栗田 隆子(著), 大野 左紀子(著), 水月 昭道(監修)
- プログラム駆動症候群 心をもてない若者たち 三森 創(著)
- 散策&観賞京都編 木下 長宏(著), ユニプラン編集部(編さん)
- 83歳の女子高生球児 上中別府 チエ(著)
- 学級愉快—そこには、子供、先生、親の溢れる愛があった— 松村 二美(著)

《歴史・国家 関連 3冊》



- 街道を行く 司馬 遼太郎 (著)
- 過去のない国—日本人はなぜ歴史に無頓着なのか 松本 正 (著)
- 国家の品格 藤原 正彦 (著)

《その他 3冊》



- それでも僕は夢を見る 水野 敬也・鉄拳(著)
- 虹の岬の喫茶店 森沢 明夫 (著)
- 比べない 葉 祥明(著)

《成城学園の「読書のすすめ」とは》

創立以来、成城学園では「読書」の習慣づけを重視しています。卒業後も学問を続けるには、学生時代の読書の習慣が不可欠だという創立者・澤柳政太郎の考えに基づき、初等学校では国語以外に「読書」の時間を設け、中学では、国語の授業を週1回「読書」の時間にあてています。「読書のすすめ」も「読書」の教育の一環で、毎年1つのテーマに沿って、成城学園中学校高等学校のさまざまな教科の教員が生徒に読んでもらいたい本を選びエッセイを執筆し約100冊もの本を紹介する書籍です。夏休み前に全生徒に配布されます。今年は50年目の50号にふさわしく「節目」がテーマです。過去には著名人から寄稿もあり、「読書のすすめ」第2号には、小説家であり評論家の大岡 昇平が「私の読書法」というタイトルで寄稿しています。



「節目」のテーマにちなんで
教員が執筆したエッセイの一部



《成城学園の「読書のすすめ」発刊のきっかけ》

「読書のすすめ」は、そもそも昭和40年当時の成城学園高等学校の校長であった穂積重正先生が、下村寅太郎著「西田幾多郎一人と思想」の中に出てくる、京都一中（旧制中学）で配布されていた「読書の菜」に大変感銘を受けて、つくられるようになったものです。「読書の菜」は、28ページほどの小冊子で、西田幾多郎、河上肇、小島悠馬、というような後に日本の学界を指導した人達が「読書の手引き」を書き、終わりに何冊かの推薦図書がそえられているものだったようです。

《成城学園の読書教育の伝統》

成城学園の創立者・澤柳政太郎は、その著書『学修法』の中で、読書について、「学生は、学校の授業のほかに余暇を利用して広く本を読むことをしなければならない。（中略）学生時代に読書の習慣を作らない者は、学校卒業後、学問を継続することは非常に困難になってしまう」と述べています。卒業後も学問を続けるには、学生時代の読書の習慣が不可欠だという創立者・澤柳政太郎の考えに基づき、成城学園では伝統的に読書の習慣づけを重視しており、初等学校では国語以外に「読書」の時間を設け、中学では、国語の授業を週1で「読書」の時間にあてています。50年間続いている「読書のすすめ」もその一つです。

《現在の成城学園の読書教育の実践》

《初等学校》 初等学校では「読書」の時間を設置しています。国語の延長としてではなく、場所（図書室）と時間（読書の時間）と教材（本）を保証し、子どもたちが自主的に読書を行う環境を整えています。3年生は週に1時間、4年生は隔週1時間の「読書」の時間を設置。5、6年生は週に3回、朝の時間（10分間）に朝読書を実施。

《幼稚園》 教員による日常の読み聞かせのほか、初等学校の児童による読み聞かせも行っています。児童とペアを組んで、じっくりと本を読んでもらうことによって、読書への興味を喚起する機会となっています。

《中学校》 1、2年生は週に1時間、国語の授業を「読書」の時間にあてています。